



グローバル人材育成教育学会

THE JAPAN ASSOCIATION FOR GLOBAL COMPETENCY EDUCATION

URL <https://www.j-agce.org>

発行人 服部 圭子

ニューズレター 第 56 号

2026 年 4 月 20 日発行

今回は、

- (1) 新理事長挨拶
- (2) 新会長挨拶
- (3) 新事務局長挨拶
- (4) 理事会報告
- (5) 編集委員会報告
- (6) 各支部会報告
- (7) 支部大会開催の案内
- (8) 年会費納入のお願い

についてお知らせいたします。

(1) 【新理事長挨拶】

アーナンダ クララー

(Lanka Nippon Biztech Institute 学長)

理事長メッセージ

このたび、グローバル人材育成教育学会の理事長にご選出いただき、誠にありがとうございます。4 月より理事長を務めることになりました、アーナンダ・クマーラです。

私を理事長としてお選びいただきましたことに、心より感謝申し上げます。皆様のご期待に十分お応えできるかどうか、不安を感じる部分もございますが、これまで様々な役職をもちながら学会活動に関わってきた経験も踏まえ、今後は理事長として精いっぱい努めてまいりたいと考えております。

さて、近年、「グローバル化」をめぐる状況は、私たちがかつて思い描いていたものとはやや異なる様相を見せています。ロシアによるウクライナ侵攻が長期化し、中東情勢も不安定さを増すなか

で、世界経済や国際社会の先行きに対する不安は決して小さくありません。今日のグローバル社会は、単に人や情報が自由に行き来する明るい時代ではなく、不確実性や緊張を抱えた時代に入っているように思われます。

このような時代において、グローバル社会で活躍できる人材の育成を目的とする本学会も、これまで以上に広い視野と深い問題意識を持って活動していく必要があるのではないのでしょうか。単に「海外で通用する人材」を育てるだけでなく、対立や分断、不確実性の高い世界のなかで、それでもなお人と人、国と国、文化と文化をつなごうとする人材をどのように育てるか。その問いは、これまで以上に重要になっていると感じています。

また、日本社会の変化も、私たちに多くの示唆を与えています。最近では、高市早苗氏が日本の首相に選ばれ、日本初の女性首相が誕生しました。これは日本社会にとって大きな歴史的出来事であると同時に、日本を取り巻く国際環境の厳しさがむしろ増していることも示しているように思います。対外的な圧力や安全保障上の緊張が高まるなかで、日本国内では外国人受け入れ政策や就労・在留のあり方についても、従来とは異なる方向性が意識され始めているように感じます。とりわけ私は、日本で働く外国人に求められる条件や役割が、今後さらに変化していくのではないかと考えています。これまでは、人手不足を背景に、十分な日本語力や日本社会への理解がないまま受け入れられていた分野もあったように思います。

しかし今後は、単に人数を補うためではなく、

日本社会の一員として共に働き、信頼され、役割を果たせる人材であるかどうか、より厳しく問われる時代になるのではないのでしょうか。私自身は、日本に必要なのは、単に労働力を補う存在としての外国人ではなく、日本の人々と協働し、日本社会や日本の発展に積極的に貢献できる人材であると考えています。そしてそれは、日本国内に限らず、国外においても、日本を正しく理解し、日本企業で活躍できる人材を育成することの重要性にもつながると思います。つまり、グローバル人材に求められるのは「移動できる力」だけではなく、「その社会の中で信頼され、役割を果たせる力」なのです。

私は現在、スリランカ初の日系大学において、将来日本で働くことのできる人材の育成に取り組んでいます。日本語が日常的に使われない環境のなかで、学生たちはIT分野の専門知識と日本語力を同時に身につけなければなりません。決して容易なことではありませんが、第1期生たちはこの4月から日本企業で元気に働き始めており、第2期生のなかにも、早い段階で内々定を得ている学生が出ています。こうした実践を通じて、グローバル人材育成とは理念にとどまるものではなく、着実な教育の積み重ねによって現実のものとなることを実感しています。

その一方で、私たちはいくつかの問いにも向き合わなければなりません。日本を含む先進国は今後も変わらず、世界の若者に選ばれる存在であり続けるのでしょうか。日本から見て、海外留学や国際交流の意義は、円安、治安不安、戦争や紛争の影響を受けるなかで、どのように変化していくのでしょうか。こうした問いを考えることも、これからの本学会にとって重要な課題であると考えています。

そのようななか、今回、本学会では初めて女性会長が選出されました。これは大変意義深いことであり、国籍や性別にとらわれることなく、多様な人々が共に学会を支えていく姿は、まさに私た

ちが目指すグローバル人材育成の一つの表れであるように思います。私自身、外国人として日本の教育や社会に関わってきたからこそ、日本人とは少し異なる角度から見てくるものがあります。その視点も大切にしながら、理事長として本学会の発展に微力ながら貢献してまいりたいと思います。

会員の皆様におかれましても、互いに支え合いながら、学会活動をさらに盛り上げていただければ幸いです。今後とも、どうぞよろしく申し上げます。

(理事長 アーナンダ クララ)

(2)【新会長挨拶】

服部 圭子

(近畿大学 教授)

ご挨拶

このたび、グローバル人材育成教育学会の学会長を拝命いたしました近畿大学の服部圭子です。会長という大役を仰せつかり、緊張の日々を過ごしております。至らぬ点多いかと存じますが、皆さまからのご指導・ご協力を賜りながら、精一杯取り組む所存でございます。何卒宜しく願い申し上げます。

さて、グローバル人材育成について考える時、国外で活躍できる人材育成、国外からの人材への教育、日本への旅行者に対応できる人材育成や社会づくりほか、さまざまな視点があると思います。

日本社会の多文化化に目を向けると、2025年末の在日外国人数は増加し(412万5,395人、国籍・地域数196)、過去最高を更新しています。外国人に対する日本語教育についても「日本語教育の推進に関する法律」により(2019年)、国・地方公共団体及び事業主の責務となりました。ですが、企業や社会における制度整備や日本語支援に加え、単なる「労働力」としてではなく、一緒に働く仲間として仕事をし、社会生活を営む対等な住民である「人」として生活ができるための環境づくりや

意識改革が必要になってきています。

外国の方々に日本社会や日本文化への理解を期待する一方で、受け入れる側の日本社会の在り方も見直していく必要が出てくるでしょう。今、外国人を含む様々な異文化をもつ人たちとの「多文化共生」の街づくり・社会づくりが課題であり、学会としても、そのための教育・人材育成に学会貢献していくことが重要だと考えます。

多様な背景を持つ人々で構成される社会、グローバルな舞台で活躍できる人材は、流暢な英語を駆使できることだけが大切ではないことに私たちは気づいてきていることと思います。自分の意見を持ち、それらをまとめて、相手に通じる自分なりの特徴ある英語やことばを用いてでも自信を持って伝えることができる力の養成、必要な折にはやさしい日本語で語るという発想や経験が大切です。複言語・複文化能力も意識し、自分が持つ他の外国語のリソースを総動員して相手とコミュニケーションしようとする態度も大切でしょう。互いに信頼し対等に仕事や生活するために相手と関わろうとする気持ちや想像力の養成も必要だと考えます。

学会員の皆様は各々の現場での研究や教育・実践を積み上げておられます。賛助会員の皆様は、社会の現場での肌感覚からも今後の教育に対する期待やご意見をお持ちかと思えます。全国大会や支部大会で、多くの皆さんにご発表いただき、また情報交換を通じて、互いに学びグローバル人材育成教育について語る事ができたらと願っております。

学会設立より10年以上経ち次の10年に向かう今、各方面から期待される学会に成長しつつあります。学会としての課題も整理・改善していくことを念頭に、さらなる学会の発展を目指して、微力ながらも貢献できたらと存じます。

皆様の変わらぬご支援・ご協力とご指導を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

(会長 服部圭子)

(3)【新事務局長挨拶】

杉本 孝美

(桃山学院大学 准教授)

この度、JAGCE 新事務局長を拝命いたしました、桃山学院大学の杉本孝美です。

甚だ未熟ではございますが、諸先生方のご協力とご指導を賜りながら、誠心誠意努めて参る所存です。

今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

(事務局長 杉本孝美)

(4)【理事会報告】

理事会では、原則として毎月1回、メールによる審議を行っています。

2025年度2月定例理事会

議案1. 新体制理事について 承認されました

議案2. 賛助会員の退会に伴う未納会費の取り扱いについて 承認されました

議案3. 新規入会希望者について 承認されました

議案4. 退会希望者について 承認されました

議案5. 2026年度のZOOM有料版契約の更新について 承認されました

2025年度3月定例理事会

議案1. 新規入会希望者について 承認されました

議案2. 規定整備委員会構成員案について 承認されました

2026年度第1回臨時理事会

議案1. 業務委託について 継続審議となりました

議案2. 事務局構成員について 承認されました

議案3. 管理事務室の廃止及び管理事務室使用メールの廃止について 承認されました

(5)【編集委員会報告】

学会誌第13巻第2号が発行されました。是非ご覧ください。査読者をはじめ、ご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。査読付きの原稿である研究論文、研究ノート、実践研究(旧「実践報告」)の、本号を含む直近3年間の平均採択率は34.1%でした。

(6) 【各支部会報告】

◆2025年度中部(第8回)・関西(第9回)合同支部大会 報告

- ・日時：2026年3月1日(日) 9:30~17:00
- ・場所：金沢工業大学 扇が丘キャンパス
- ・大会テーマ：AI時代のグローバル人材育成

2025年度中部(第8回)・関西(第9回)合同支部大会が対面とオンラインによるハイブリッド形式で開催されました。61名の参加があり、特に今回は学部生や高校生といった若い人たちの参加が多かったのが特徴的でした。

シンポジウムでは、高等学校におけるグローバルコンピテンシー育成について、WWL(World Wide Learning)拠点校の取り組みが紹介され、単なる語学力にとどまらず、言語を媒介として思考し、他者と協働しながら課題解決に取り組む総合的な力を培うべく教育を受けてきた高校生の英語による発表に対して大きな拍手が送られました。

ラウンドテーブル「グローバル人材教育の担い手養成(学校園・地域社会・AI)」では、学校、幼稚園・保育園、保護者や地域社会に関する様々なトピックに関して「人間ならではの力の養成」を主眼に議論し、また、その人間固有の能力をいかに評価し、AIとの協働をどのように教育的に位置づけてさらなる人間の能力発展へと結びつけるかについて、ざっくばらんな意見交換がなされました。

スリランカからのオンラインによるスリランカ文化に関する学生発表を含む研究発表では、グローバル人材教育の中での英語教育実践やNegative Capability、探求学習、国際協働型PBL授業、留

学関連、非日本語母語話者への日本語支援とAIといったバラエティに富んだトピックに関して発表がなされました。

お陰様で以上のような充実した内容となりましたが、これもお参加いただいた皆様と運営にご協力いただいた方々のご尽力の賜であると、心より感謝申し上げます。



(関西支部長 日高俊夫)

◆第10回グローバル人材育成教育学会 九州支部大会 報告

- ・日時：2026年3月7日(土) 12:30~17:00
- ・場所：佐賀女子短期大学
- ・大会テーマ：世界を教室にするグローバル人材育成 —複数のキャンパスで育つ知—

2025年度九州支部大会(第10回)を対面およびオンラインによるハイブリッド形式(基調講演・シンポジウムのみ)で開催し、盛会裡に終了しました。

基調講演では、本学会理事長の大六野耕作先生が、明治大学における17年にわたる国際教育の実践をもとに、「世界を教室にする」教育の在り方について講演を行われました。海外拠点や多様な学習環境を活用しながら、学生が主体的に学びを拡張していくプロセスの重要性が示されました。

特別プレゼンテーションでは、本学会会長のアーナンダ・クマラ先生がオンラインで登壇し、スリランカのランカ日本ビズテクインスティテュートの取り組みについて紹介されました。日本と海外を結ぶ実践的な教育モデルや人材育成の可能性が提示されました。

シンポジウムでは、本学会名誉会長の小野博先生をコーディネーターとして、日本ビズテクインスティテュートのアーナンダ・クマール先生、九州大学の北浩子先生、佐賀女子短期大学の張允磨先生が登壇しました。各登壇者は、それぞれの教育現場における海外大学との連携事業の実践を報告し、複数のキャンパスでの学びの可能性と課題について議論が交わされました。

当日は、対面参加者 25 名、オンライン参加者 5 名の計 30 名が参加し、活発な質疑応答と意見交換が行われました。また、九州支部総会においては、2026 年度より新支部長として福岡大学の新田よしみ先生の就任が承認されました。



(九州支部長 青柳達也)

(7) 【支部大会開催の案内】

2026 年度 第 12 回北海道支部大会・第 9 回関東支部大会 共同開催のお知らせ

開催日：2026 年 10 月 17 日（土）※時間未定

会場：戸板女子短期大学 三田キャンパス

(JR 山手線 田町駅 徒歩 7 分／都営地下鉄三田線 芝公園駅 徒歩 1 分)

アクセス：<https://www.toita.ac.jp/access/>

開催形式：ハイブリッド

テーマ：グローバル化する社会と内なる国際化
— 変わりゆく社会とグローバル人材育成の課題 —

(8) 【年会費納入のお願い】

2026 年度の年会費の納入をお願い申し上げます。納入期限は 6 月末までとなっております。未納の会員の皆様は、早急に納入いただけますようお願い申し上げます。

会員として全国大会や支部大会にご参加いただく場合、また、学会誌に投稿いただく際には、年会費の納入が必要となります。

◆会費

正会員 5,000 円

学生会員 1,000 円

大学会員 10,000 円

賛助会員 30,000 円

◆お振込での支払

ゆうちょ銀行（振替口座）

口座記号番号：01700-0-126765

加入者名：グローバル人材育成教育学会

* ゆうちょ銀行以外の金融機関から上記口座に振り込まれる場合は、以下のようにご指定ください。

銀行名：ゆうちょ銀行（9900）

店名：一七九（イチナナキュウ）店

店番：179

預金種目：当座預金

口座番号：0126765

◆正会員・学生会員の振込の際は、振込人名に必ず「会員番号と氏名」をご入力ください。

なお、振込人名と会員氏名が異なる場合（例：所属大学名、法人名、通称氏名等の場合）は、大変お手数ですが、振込日、会員番号、氏名を明記のうえ、学会ホームページの「お問い合わせ」フォームよりご連絡くださいますようお願い申し上げます。

◆大学会員・賛助会員の振込の際は、振込人名に必ず「会員番号と大学名/法人名」をご入力ください。

<お問い合わせ>

グローバル人材育成教育学会管理事務局

[https://j-agce.org/contact form/](https://j-agce.org/contact_form/)

【文責】服部 圭子

【編集】杉本 孝美